

標 題： Consumption of Olive Oil and Specific Food Groups in Relation to Breast Cancer Risk in Greece
ギリシャにおけるオリーブ油および特定食品群の摂取と乳癌リスクとの関連

著 者： A. Trichopoulou, et al. (ギリシャ アテネ公衆衛生大学、
米国 ハーバード大学公衆衛生学部)

掲 載 誌： J. Natl. Cancer Inst. 87: 110-116 (1995)

要 旨：

背 景： 他種類の油脂摂取とは違ってオリーブ油摂取は化学物質誘発性乳癌の発癌を促進しないと実験動物の研究で示されるが、ヒトのデータは少ない。
さらに女性における乳癌の原因として、主な栄養素と区別した食品群の役割に関して証拠は結論に到達してない。

目 的： 乳癌リスクに対するオリーブ油、マーガリンおよびさまざまな食品群の影響を、評価するためにこの解析を実施した。

方 法： 乳癌の女性 820 人および対照の女性 1548 人で実施した総合的半定量的食事頻度アンケートのデータを用い、オリーブ油、マーガリンおよび一連の食品群の摂取量を 5 区分に分けてオッズ比(OR)および線形トレンドの統計値を計算した。
生殖の危険因子、エネルギー摂取、および相互交絡影響の補正を無条件ロジスティック回帰モデルで実施した。

結 果： 野菜摂取および果物摂取は、それぞれ別々に乳癌リスクの 12%および 8%の有意な低下した(5 区分)；他の食品群とは明らかに有意な関連がなかった。

オリーブ油摂取の増加は乳癌リスクの有意な低下と関連したが(OR=0.75[95%信頼区間 = 0.57-0.98]1 日に 1 回超え対 1 回)、マーガリン摂取の増加はリスクの有意な上昇と関連した(OR=1.05[95%信頼区間 = 1.00-1.10] 1 月に 4 回増加)。

オリーブ油との関連は閉経後女性に集中されル用に見えたが、関連の相互作用項は統計的に有意でなかった；野菜、果物、マーガリンの摂取でも閉経状態と関連がないと示唆された。

結 論： 本研究を含む大部分の研究で多量栄養素の主な成分は乳癌リスクと有意な関連はないと示されるが、野菜および果物はこのリスクと有意な強い逆関連をする。

オリーブ油摂取が乳癌リスクを低下させるが、マーガリン摂取は疾患のリスク上昇と関連するとの証拠もある。
